

若者・子育て世代を対象としたまちづくり懇談会

日時 令和7年2月9日（日）
午後2時30分～午後4時00分
場所 茅野市ひと・まちプラザ3階集会室

開催周知方法について

意見要旨	説明・回答要旨
今回の懇談会は、20代から40代の若い世代限定となっているが、これは親の世代を限定することになるが、0歳から中学生までの子どもを持つ親へ案内いただければより多くの子供をもつ親の意見を聞けると思う。	(市長) 20代から40代の親に限定していたわけではなかったが、周知の仕方に問題があった。ご意見を参考にして、より多くの方にご意見をいただけるような形を目指していきたい。

意見の今後の活かし方について

意見要旨	説明・回答要旨
懇談会で出た意見は、どういったところに生かされるのか。また、その内容を市民が知ることができるのか。	(市長) いただいた意見を各部署で共有させていただく予定である。 本日の懇談会は、今後の市政にとって非常に重要なご意見をいただける場ということで、多くの職員が有志で参加している。さらに多くの市民の皆さんのご意見を市政に生かせる仕組みづくりに取り組んでいきたい。

公共施設の利用料について

意見要旨	説明・回答要旨
公共施設の使用料について、ボランティア団体からも利用料を徴収するという話を聞いているが、利用頻度も多いため、運営が厳しくなる団体が出てくる。まちづくりに必要なイベントについては審査基準を設けるなどして減免の対象としてほしい。	(市長) 受益者負担という観点から、公共施設を利用している人とそうでない人との公平性をとるために利用者へ負担をお願いしている。ただ、利用料だけ上げるのではなく、担当部署が活動内容をしっかり把握して別の形で支援していくことも大切だと考えている。 この案件については、内部でも議論している段階なので、市民の皆さんと対話をしながら検討していきたい。

温泉の利用料について

意見要旨	説明・回答要旨
市内外の利用料を一律にするという話があるが、市民としては、茅野市に住んでいるからこそ割引を受けられているというお得感があるので、このままの利用料でお願いしたい。	(市長) H28年から市内外の利用料に差を設けているが、第6次総合計画のテーマの一つに「交流」を掲げていることや、観光地として多くの観光客をおもてなししていることを踏まえ、利用料の差を無くして、市内外分け隔てなく交流できる環境を整えたいと考えている。
市のホームページでは、利用料について市外の方からの「排除されている印象がある。」という意見を多数いただいたことを受けて区分を無くすと書かれていた。 一方、北杜市のホームページでは、疎外感があるという問い合わせに対して、「市運営温泉施設は市民の財産であり、公費負担も行い運営しており、市内外の方が同額で利用することは、負担の公平性が保たれないため、区分を設けている」と書かれていた。茅野市は、市が運営する温泉施設として、負担の公平性についてはどう考えるか。市民にとっては、200円の値上げは家計への負担が大きい。また、市外の方の利用料(600円)はそのままでのよいのだろうか。	(市長) 温泉施設の利用料だけに限定して考えれば、ご意見いただいたことはその通りだと思う。 ただ、茅野市は観光地として、また、多くの企業を抱えているまちとして市内外で多くの方が行き来していることを考えると、温泉施設の利用料を一律でご負担いただくことが最適と考える。 (財政課長) 財政的な面では、今後の温泉施設の運営費の捉え方について再検討を行い、受益者負担によってそれをまかなうこととしたため、受益者の負担が市内の方か否かで差が出てしまわないように利用料を一律とすることが最適と考える。

ナンバープレートについて

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市で発行している原付のナンバープレートのデザインがシンプルだと思うので、八ヶ岳をモチーフにしたり、茅野市ならではのデザインにしてほしい。	(市長) 貴重なご意見として、茅野市でならではのデザインへ変更できるように取り組んでいきたい。

市政方針の発信について

意見要旨	説明・回答要旨
スケートセンターの存続についてもそうだが、市として、何を、いつまでに、どのようにしたいのかという方向性があまり見えてこない。今後様々な公共施設や事業であり方を検討する機会が増えてくると思うので、明確な指針を発信したほうが良いのではないか。	(市長) 市行財政審議会では、スケートセンターは原則廃止が妥当としている。これは、使用期間と運営費のバランスが、その判断の大きな要因となっているため、それを解消するために県や近隣市町村等と協議している。 行財政改革は、スピード感が大事だが、市民の皆さんが大切にしているものがそれぞれ違うので、そこにしっかりと耳を傾けていきたい。また、若者に選ばれるまちづくりを考える中で最も大事にしたいことは、「働く場所があること」であり、かつ「選べる環境を整えること」だと考える。「医療」、「福祉」、「教育」はもちろん大事だが、「働く場所があること」は、生活をする上で必要不可欠な要素だと考えている。

茅野市の魅力について

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市では「若者に選ばれるまち」をテーマとしているが、市内外ともにまちづくりの具体像が見えない。すばらしい自然の中で生活できる茅野市の魅力を、移住を考えている都会の若者や茅野市を出ていってしまうかもしれない地元の若者に分かりやすく伝える事ができれば、人口増や市の魅力アップにつながると思う。	(市長) 若者たちの意見がしっかりと市政に取り入れて、やりたいことが実現できる環境が大切だと考えており、現在そのための仕組みづくりをしている。 (副市長) 若者のうち20代から40代の女性の多くが都市部に行ってしまうことが全国的に問題となっている。 茅野市で育った若者に故郷を飛び出し世界へ羽ばたいていってほしいと思う反面、地元に戻ってきてほしいという思いもある。地元に戻ってきてもらうためには働く場所の提供とやりたい仕事を実現するための支援が必要となる。 そこで茅野市では、女性の起業・創業に向けた支援を行っていて、とても前向きな意見を持っている若い女性もたくさんいる。若い男性についても、駅前を中心として様々なイベントを実施しており、今後も人が人を呼ぶような活動を支援していきたい。

子ども向けの公共施設について

意見要旨	説明・回答要旨
親子で一緒に遊べる施設として0123広場があるが、未就学児が親子でかつ室内で遊べる施設が無い。子育て世帯の多くが、休日には市外に出かけてしまっている状況、外から子育て世帯を呼び込むためには、室内で子どもが遊べる施設を作ることが必要なのではないか。	(市長) 茅野市では、0123広場を代表として室内で遊べる公共施設をいくつか整備してきた。各地区にはこども館が「屋根のある公園」をコンセプトに設置されたが、利用者が少なく、地域の方にお手伝いをお願いして運営している状況。そのような状況を踏まえ、若者世代にとって、何が必要かを考えていきたい。

体育施設の使用料について

意見要旨	説明・回答要旨
スポーツ団体の指導者をしているが、子どもの数が減っていくなかで、団体に加入する子どもも当然減ってくる、それに加えて施設利用料の再検討の結果、スポーツ少年団からも利用料を徴収するという事になれば、保護者の負担が増えて今まで以上に団体への加入者が減ってしまうと思う。	(市長) 体育施設の利用料については、もう少し各団体等の意見を聞くなかで判断できればと思う。 また、来年度には、部活動の地域移行について各団体にご協力をお願いする場面が出てくる。そういったことも勘案して体育施設の利用料について検討を進めていきたい。

寒天産業について

意見要旨	説明・回答要旨
和歌山県のように、茅野市でも「かんてん課」を作ってほしい。茅野市でかつて盛んに行われていた寒天づくりは非常に特徴的で、守っていかなければいけない産業だと思う。かんてん課を通して市から産業への支援をしてほしい。	(市長) 寒天産業は守っていかなければいけないと感じている。市内の事業者は、工夫を凝らして寒天の活用法を模索していたり、学校給食では、月に一度必ず寒天料理を出すなど寒天の魅力を伝える努力をしている。今後それらをどう発信していくのが課題となっている。いただいた若い独創的な意見を取り入れ発信力を強化していきたい。

教育について

意見要旨	説明・回答要旨
子育て世帯として子どもを育てながら、塾講師を18年間勤めてきたが、年々学歴の格差が大きくなっている。学習指導要領に定められた授業だけでは、格差の二極化はさらに進んでしまうので、市独自の子どもに寄り添った授業やTTを活用した授業を展開してほしい。	(教育長) 子どもたちの学力の差は、体験の差によるものも大きいと考えている。そして、その体験の差は、コロナ禍でさらに大きく広がってしまっている。 これから5年、6年先を見据えて、一人一人に即した学びを積極的に展開していかなければ、問題はさらに大きくなると感じている。 TT（チームティーチング）については、県の基準よりも多い人数を配置して、一人ひとりに寄り添った教育を展開している。

選挙割引について

意見要旨	説明・回答要旨
国政選挙、地方選挙共に市民の関心が非常に低い。より多くの声を国政、市政に反映させるために市が働きかけをして、投票に行った方への市内施設等の割引制度のようなものを作してほしい。 特に若者は、何か割引が受けられているということであれば、投票する人は増えると思う。	(市長) とても面白い意見だと思う。今後賛同してくれる団体や事業者の輪を広げていきたい。

移住推進について

意見要旨	説明・回答要旨
茅野市では、物件見学ツアーや市内に一週間滞在する移住体験ツアーなど様々な取り組みを行っていると思うが、詳細な情報を知りたい。また、移住体験住宅については、泉野小学校の近くに教員住宅として使っていた物件があるので、活用してはどうか。	(移住交流推進室長) 茅野市、宅建協会及び茅野商工会議所で「楽園信州ちの」という協議会を設けて活動している。 物件見学ツアーについては、春、夏、秋、冬に1回ずつの計4回実施していて、ルートについては、宅建協会から提供される物件の状況と併せて市内に移住した場合、実際に利用する施設等を見学できるように組み立てている。 移住体験住宅については、4月から11月の期間に1か月単位で受付けていて、毎回抽選になるほど盛況。 ご意見いただいた物件については、所管部署及び管理をお願いしている不動産業者と確認を行いながら検討していきたい。